



氏家幼稚園だより 第27号

平成 28 年 12 月 19 日

もちつきをしました



14日に餅つきをしました。晴れていれば、園庭で行うのですが、あいにくの雨で、正門前のコンクリートのところでの実施となりました。

怪我の功名といいますか、コンクリートの上での餅つきは、ドスン、ドスンとお腹に響くような振動を感じ、子どもたちは杵の重みを感じられたようです。

自然に「がんばれー」「よいしょっ、よいしょっ」の掛け声が出ました。力強さを反映してか、掛け声もみんなの声が合わさって大きく響き、長い間続いていました。

年少担任の記録です。

一人が「ゆっくりだったね」と杵を振り下ろす速さについて感想を述べると、「なんでだろう」ということになり、「重いんだよ、あれ」「手をはさまないようにじゃない」「おもちがくっついちゃうから」など、ひとりひとりが考え、意見を出し合っていました。友達意見を聞いて、納得する姿も見られました。

同じく年少担任の記録です。

蒸しあがったもち米を見て「ごはんだ！」と大興奮。「ごはんのにおいがする。いい匂い」と感激していた子もいました。応援する際も「おもちになれ～」ともちをつく真似をする場面も。「年長になったらできるんでしょ」と楽しみにする発言も聞かれました。給食でも「おいしい」と喜んで食べ、4つも食べた子もいました。

年中さんの給食場面です



年長さんは、今年は自分たちがつく番と、出番を心待ちにしていたようです。子ども用の杵で、仕上げのつきをしました。

年長担任の記録です。

小さな杵ですが、重みはあったので「重かったかな？」と聞いてみると「全然重くな～い」「楽々」「軽かった」「疲れてな～い」との返事が返ってきました。

プラスの言葉を口にすることで楽しかったことを伝えている様子。充実感がうかがえました。

昨年は「ぺったんぺったん」と音を表現していましたが、今年は「別の音がする」と言い、地に響くような「どすん」という音を見つけて不思議がっていました。



同じく年長担任の記録です

「今日もちつきだね」「楽しみ」と、登園すると友達と話し期待を高める姿が見られた。前日、「もちのひみつ」の本を見せていたことで興味深く体験できた様子。普段食べている米と違う米のこと、杵や臼の名前、おもちになった時の感触などたくさんを感じることができたように思う。「楽しかった～。おもちつき」「おいし～い」と幸せそうにする様子がありました。

調べてみたところ、弥生時代には農耕社会が形成され、すでに、稲作信仰があったようです。一粒のコメから480～530粒の収穫がある米は、日本人の食生活を担ってきました。また、もちつきは一人ではできない作業で、他家との協働作業であり、ハレの日の行事でもありました。

こういった行事を通して、事前に先生と本を読んだり、行事の由来について考えたりすることで、子どもたちの日本人としての心の核が少しずつ大きくなっていくように感じます。

サンタが来たよ

今年は、12月13日ごろにサンタさんから手紙が届きました。

幼稚園にサンタが来てくれるかもしれないという期待が高まっています。



20日には誕生会とクリスマス会をしました。今年のサンタさんは、英語しかわからない様子。子どもたちの質問を百子先生が英語に翻訳して伝えてくれました。手紙は日本語なのに、という矛盾点は突かないでください。



どこから来ましたか？

みんなのほしいものをどうやってわかるの？

年長さんの質問を、翻訳こんにやくを食べた百子先生が通訳します。



サンタさんを交えた「ドルチェ」の皆さんのコンサート。今年2回目です。クリスマスのメドレーを披露してくれました。

今年のプレゼントは、ひよこ組が絵合わせカード、年少がカルタ、年中が「犬棒かるた」、年長がけん玉となりました。

年少さんでは、年齢相応の文字で遊ぶカルタを十分に楽しんでほしいと思います。

文字に興味をもち始めた年中さんは日本情緒豊かなことわざ

のカルタを選定しました。江戸情緒たっぷりの絵柄は子どもの興味を引くだけでなく、ことわざが耳になじみ、語感が豊かになると思います。年長以降も使ってほしいと願い選定しました。団らんの思い出に残るカルタだと思います。

もうすでに、カルタをもっている年長さんは、全身の調整機能を使って遊んでほしいと思いけん玉を選定しました。いろんな技を考え出し、友達と競うのも楽しそうです。

冬の遊び

寒さが厳しくなってきました。氷点下までに気温が下がった朝は氷と霜柱に人だかりができます。霜柱をバケツに入れてチョコアイスやさん。水たまりが凍ったのを、スコップをつるはしに見立てて割る作業に没頭している一団も見られます。

手がかじかむ感覚もこの時期ならではの。

地下水をくみ上げている池は意外に温かく、魚釣りごっこも見られます。

四季の移り変わりや自然現象にたくさん触れてもらいたいと思っています。



サイクルロードに張った氷。割ることが楽しい。道具を使っていることが大人になったようで、誇り高い気分を味わう、そんな発達の時期です。

強い力を出すことを面白いと感じ、粘り強い作業につながっています。



霜柱を集めました。同じ目的の子がクラスを超え集まって。

同じく霜柱を使っても、年長さんは冷凍ごっこになります。

子どもたちのロコモティブシンドロームが指摘されています。握力が弱いのだそうです。握力が弱いと、つかむ、引く、持ち上げる、投げる、いろいろな動作に影響を与えます。ぞうきんを絞る、布巾でテーブルを拭く、布団を運ぶ、手で水をすくうなどの動作が生活の中で経験する機会が減っていることが原因と指摘されています。幼児体育の専門家は幼少期に自由に遊ぶことが大切であると話しています。こういった自然とかかわる遊びの中に、生涯に必要とされる動作の要素がたくさん入っていることを大切にしていきたいと思います。

ねらいのない活動はない

幼稚園は文部科学省の管轄する学校です。毎日の保育にはねらいを立てます。今の時期は、
年長：友達と意見を出し合い互いのよさに気づきながら活動を進めていく楽しさを味わう。
季節感を味わえる遊びや活動を通して友達と折合いを付けて遊ぶ良さを知る。
自分なりのめあてをもち、試したり挑戦したりする楽しさを味わう。
年中：思いを出し合い想像を膨らませながら友達との遊びを十分に楽しむ。
友達とのかかわりを深め、その思いを感じながら遊びを楽しむ。
年少：自分の思いを出しながら友達とのつながりを感じて遊ぶ。
生活や遊びの中で自分の気持ちを伝え、相手の気持ちに気づいていく。
などをねらいとして環境構成を行っています。
保育をしていて、子どもたちに上のような姿が見られたら、ねらいは達成されたと考えていいでしょう。
日々、写真で記録を取っているとねらいに到達した子どもの姿が見えてきます。
発表会などの大きな行事も、この時期に子どもの成長が見込めるからこそ、ねらいを立て実行するものです。劇にするか、発表にするかは、子どもに何を体験してほしいかで決めます。
一年間を見通して子どもの発達の期を見極め、その時期に行事を計画する、これが教育課程の考え方です。遊びの中でこれを達成するよう環境を構成しています。
今年もたくさんの応援とご協力、ありがとうございました。

おう吐物処理研修

感染性の疾病がはやる季節です。今のところ幼稚園では感染性疾患の休みの子は多くありません。ご家庭で、きちんと衛生管理や健康管理がなされていることを感じます。

ノロウイルスは吐き戻しや下痢の処置をきちんとしないと、まん延する恐れがあり、幼稚園では以下の対応をしています。

- 毎日トイレの取っ手、便器、水道の蛇口、保育室の出入り口の取っ手など、子どもが接触しそうなところを規定で薄めた次亜塩素酸 Na で消毒しています。
- おう吐物があった場合、処理マニュアルに従って処理をします。処理後その保育室は使わず、空き教室にて保育をします。

先日も、おう吐物処理の研修を行いました。おう吐物や下痢からの空気感染を防ぐため、消毒に20分の時間をかけます。

集団生活の場ですから、最善の処置をしていきたいと思えます。ご協力よろしくお願ひします。

エプロン、マスク、靴カバー二重の手袋を装備し、おう吐物の上をキッチンペーパーで覆い、まず10分置いてからかき集め、袋に入れ、さらに汚染された区域を10分消毒します。

